

ロイヤルカナン

皮膚疾患クリニカルケース コンペティション 2012

症例集



ROYAL CANIN
Dermatology
Clinical Case
Competition 2012

■ ご挨拶

謹啓

先生方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社では2011年の10月より“皮膚疾患クリニカルケースコンペティション”を開催させていただきました。4ヵ月という短い期間にもかかわらず、実に897件ものエントリーをいただき誠にありがとうございました。ご報告いただきました数多くの症例の中から、一部抜粋し症例集を作成いたしました。

同様の症例でお悩みの際の参考として、またオーナー様へのインフォームドコンセントのツールとして、何らかの形で先生方の診療の一助となれば幸いです。

今後もより良い製品のご提供に尽力していく所存でございますので、ロイヤルカナンペテリナリーダイエットに変わらぬご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

ロイヤルカナン ジャポン, Inc.

社長 山本 俊之

山本俊之

■ 症例範囲および手順について

- **エントリー期間**：2011年10月～2012年2月
- **対象症例**：犬と猫の皮膚疾患全般（外部寄生虫症および原発性感染症は除く）
- **治療**：試験期間中は、選択した食事のみの給与。
試験前からの継続治療の場合は新たな治療を追加しない。
- **評価方法**：給与開始前、開始後30日および60日後に診察、経過を記録。同時に患部の写真撮影を行った。症状改善の指標として、「皮膚病変の重症度スコア」により数値化した。

皮膚病変の重症度スコア

- **評価部位**：①耳 ②口唇～顎 ③目の周り ④右前肢 ⑤左前肢 ⑥右後肢 ⑦左後肢 ⑧腹部 ⑨腋窩
- **皮膚病変**：A 発赤 B 脱毛・掻破痕 C 苔癬化
- **スコア**：全くない(0)、わずか(1)、軽度(2)、中程度(3)、重度(4)の数値とその合計値で評価

〈例〉

耳			口唇～顎			目の周り			右前肢			左前肢			右後肢			左後肢			腹部			腋窩			スコア合計 (A~C)
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
3	3	2	0	0	0	0	0	0	4	4	3	4	4	3	1	1	1	0	0	0	3	3	3	4	4	4	54

※本症例集ではスペースの関係上、記載しておりません。



目次

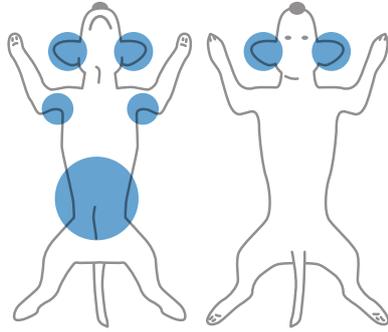
症例紹介

症例 1	Name: チョコ 犬種: 柴 年齢: 7歳	製品名: アミノペプチド フォーミュラ	4
症例 2	Name: エルモ 犬種: ビーグル 年齢: 9歳	製品名: 低分子プロテイン	5
症例 3	Name: チャコ 犬種: フレンチ・ブルドッグ 年齢: 6歳	製品名: 低分子プロテイン	6
症例 4	Name: るう 犬種: 柴 年齢: 8歳	製品名: 低分子プロテイン	7
症例 5	Name: ねね 犬種: 柴 年齢: 2歳	製品名: アミノペプチド フォーミュラ	8
症例 6	Name: ゲン 犬種: 柴 年齢: 8歳	製品名: セレクトプロテイン(チキン&ライス)	9
症例 7	Name: ばん 犬種: ミニチュア・ダックスフンド 年齢: 5歳	製品名: スキンサポート	10
症例 8	Name: くう 犬種: 柴 年齢: 6歳6ヵ月	製品名: 低分子プロテインライト	11
症例 9	Name: さくら 犬種: 柴 年齢: 8歳7ヵ月	製品名: セレクトプロテイン(ダック&タピオカ)	12
症例 10	Name: レン 犬種: ラブラドル・レトリバー 年齢: 7歳	製品名: スキンサポート	13
症例 11	Name: リリイ 犬種: キャバリア・キングチャールズ・スパニエル 年齢: 4歳	製品名: アミノペプチド フォーミュラ	14
症例 12	Name: プー 犬種: バグ 年齢: 7歳2ヵ月	製品名: アミノペプチド フォーミュラ	14
症例 13	Name: アンジー 犬種: ラブラドル・レトリバー 年齢: 2歳	製品名: アミノペプチド フォーミュラ	15
症例 14	Name: チャオ 犬種: MIX 年齢: 1ヵ月	製品名: アミノペプチド フォーミュラ	15
症例 15	Name: ジン 犬種: 柴 年齢: 6歳5ヵ月	製品名: スキンサポート	16
症例 16	Name: ルフィ 犬種: 柴 年齢: 9歳	製品名: スキンサポート	16
症例 17	Name: ナナ 犬種: 柴 年齢: 13歳	製品名: スキンサポート	17
症例 18	Name: チロ 犬種: 柴 年齢: 10ヵ月	製品名: 低分子プロテイン	17
症例 19	Name: ココ 犬種: MIX 年齢: 4歳	製品名: 低分子プロテイン	18
症例 20	Name: チョコ 犬種: ミニチュア・シュナウザー 年齢: 10歳6ヵ月	製品名: 低分子プロテイン + pHコントロール	18
症例 21	Name: モモ 犬種: ブルドッグ 年齢: 5ヵ月	製品名: スキンケアプラス ジュニア	19
	コンペティション評議員コメント		20
	クリニカルケース統計データ		21
	ロイヤルカナン皮膚疾患対応製品		22

※症例1~10は、本コンペティションのベストケースに選ばれた症例です。

栄養管理

アミノペプチド
フォーミュラ



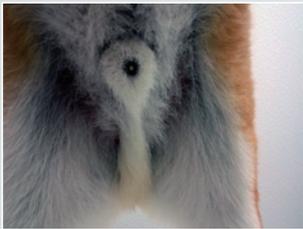
性別	去勢オス	年齢	7歳	発症年齢	3歳
症状	掻痒、脱毛、発赤、苔癬化、色素沈着				
発症部位	腋窩部、下腹部、耳	季節性	なし		
食事歴	低分子プロテイン				
病歴	他院での治療歴は不明だが、内服なしでは痒みが治まらず、脱毛もひどいとのことであった。患部の様子から慢性化した症状であることが示唆された。当院来院時は3週間にわたり、セファレキシン、ヒドロキシジン、プレドニゾロンを処方し、その後は一切投薬は行わなかった。内服終了後にフード給与を開始した。				

給与開始時 0日目

給与 30日目

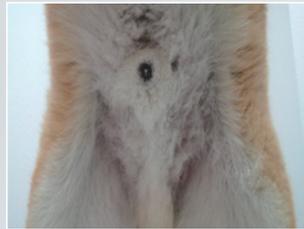
給与 60日目

▼投薬なし



- 3週間の投薬により痒みは減ったものの、患部を掻く仕草はみられた。
- 外耳炎もひどく、泥状の耳垢が大量に認められた(球菌とマラセチアを確認)。

▼投薬なし



- 症状自体はかなり落ち着いてきており、掻く頻度がかなり減った。
- 脱毛部位に発毛が認められた。
- 外耳炎の症状も同時に治まり、耳垢の質が変わってきた。

▼投薬なし



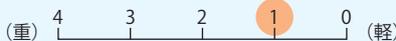
- 痒みがほとんどなくなった。脱毛部位にはさらに発毛が認められた。

飼主の
痒みの
評価

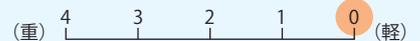
頻りに掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



たまに掻いたり咬んだりするが、
快適そうに過ごしている

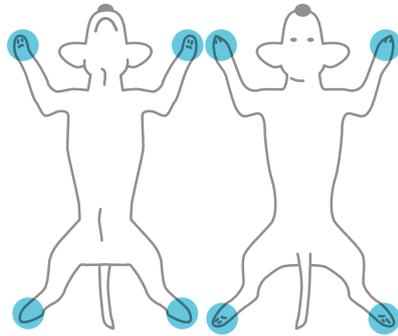


まったく痒がっていないか、
めったに掻くことはない



栄養管理

低分子プロテイン



性別	避妊メス	年齢	9歳	発症年齢	3歳
症状	掻痒				
発症部位	四肢端	季節性	なし		
食事歴	セレクトプロテイン「ブルーホワイティング&タピオカ」				
病歴	プレドニゾロンを症状に合わせて処方したが、反応に乏しかった。ノルバサンシャンプーによる洗浄を実施した。以前、新奇タンパク食による除去食試験を実施した際には、他の食事やおやつを与えていたとのこと。				

給与開始時 **0**日目

給与 **30**日目

給与 **60**日目

主な治療

- ▼ 投薬なし
- ▼ ノルバサンシャンプー 1~2週間に1回

- ▼ 投薬なし
- ▼ ノルバサンシャンプー 1~2週間に1回

- ▼ 投薬なし
- ▼ ノルバサンシャンプー 1~2週間に1回



右前肢



左前肢



左後肢



右後肢

- 四肢端および趾間の発赤、脱毛、苔癬化がみられた。
- とくに右前肢端は症状が重度で、一部にびらんも認められた。



右前肢



左前肢



左後肢



右後肢

- 痒みの程度が半減し、臨床的にも明らかな改善傾向が認められた。



右前肢



左前肢



左後肢



右後肢

- 生活に支障がないレベルまで痒みが軽減した。
- 発赤、苔癬化の軽減および発毛が認められた。

飼主の
痒みの
評価

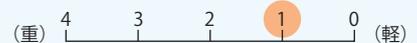
常に掻いたり咬んだりし、いつも落ち着きがない



ときどき掻いたり咬んだりし、落ち着きがないことがある

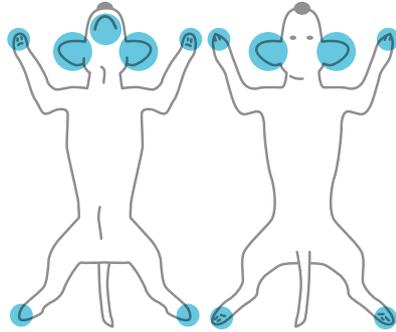


たまに掻いたり咬んだりするが、快適そうに過ごしている



栄養管理

低分子プロテイン



性別	去勢オス	年齢	6歳	発症年齢	6歳
症状	掻痒、発赤				
発症部位	耳介、下顎、指趾間	季節性	なし		
食事歴	市販の総合栄養食				
病歴	なし				

給与開始時 0日目

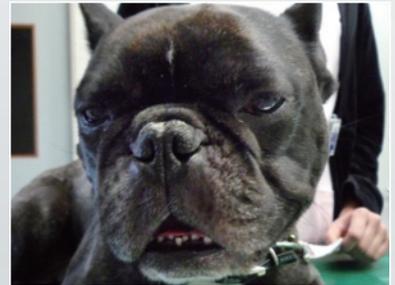
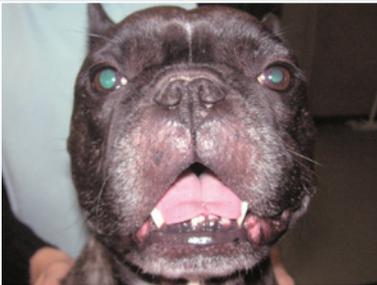
給与 30日目

給与 60日目

▼投薬なし

▼投薬なし

▼投薬なし



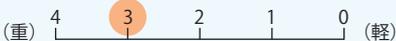
● 耳介、下顎の皮膚、指趾間に掻痒を伴う発赤が認められた。

● 全身的に症状の軽快が認められた。とくに掻痒については、飼い主の満足度は高かった。

● 指趾間にさらに改善がみられた。その他の皮膚病変部においても、ほぼすべてが改善した。

飼主の
痒みの
評価

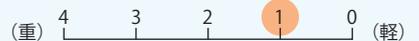
頻りに掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



ときどき掻いたり咬んだりし、
落ち着きがないことがある

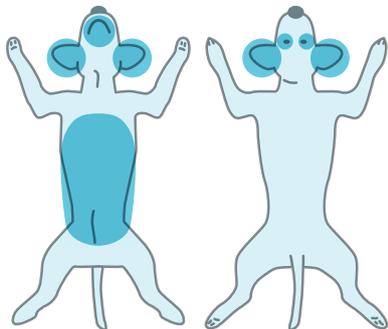


たまに掻いたり咬んだりするが、
快適そうに過ごしている



栄養管理

低分子プロテイン



性別	メス	年齢	8歳	発症年齢	5歳
症状	耳介と眼・口周囲の皮膚炎、全身性の紅斑、掻痒、脱毛				
発症部位	全身(特に耳介、眼と口唇周囲)		季節性	なし	
食事歴	他社の療法食(高齢期用、皮膚疾患用、下部尿路疾患用)				
病歴	2年ほど前から皮膚症状が散発し、下記の治療を実施していた。 ・プレドニゾロン(1mg/kg/sc) ・クレマスチンフマル酸塩(1/2錠/bid/14日間) ・イベルメクチン(0.33mL/sc/Q1wk×3回)<1年半前> ・ビクタスS MT クリーム塗布<1年半前>				

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

主な治療

- ▼ 投薬なし
- ▼ つばき(シャンプー) 1か月に1回

- ▼ 投薬なし

- ▼ 投薬なし



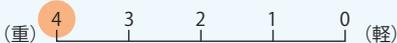
以前、食事を新奇タンパク食に変更したことがあるが、変化はなかった。

低分子プロテインに変更して10日目くらいから症状が改善した。

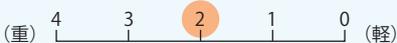
患部の症状は改善し、発毛が認められ、腹部にわずかな紅斑性の色素沈着が残るのみとなった。

飼主の
痒みの
評価

常に掻いたり咬んだりし、いつも落ち着きがない



ときどき掻いたり咬んだりし、落ち着きがないことがある

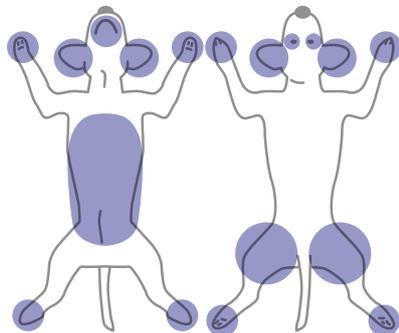


たまに掻いたり咬んだりするが、快適そうに過ごしている



栄養管理

セレクトプロテイン
(チキン&ライス)



性別	オス	年齢	8歳	発症年齢	1~2歳
症状	掻痒、脱毛				
発症部位	耳、眼、口唇、肢端、胸腹部、大腿部	季節性	なし		
食事歴	他社の皮膚疾患用療法食				
病歴	1~2歳の頃から頻繁に外耳炎、皮膚炎の発症を繰り返していた。外耳炎にはオトマックスを処方し、重症時や大腿部内側などの皮膚炎には抗菌薬(ドキシサイクリン)や抗真菌薬(イトラコナゾール)で治療していた。今回は4ヶ月前から症状が悪化した。				

給与開始時 **0**日目

給与 **30**日目

給与 **60**日目

主な治療

- ▼ドキシサイクリン
7mg/kg/bid/PO/2週間
- ▼イトラコナゾール
5mg/kg/sid/PO/2週間
- ▼プレドニゾン
0.7mg/kg/PO/週1~2回
- ▼ノルバサンシャンプー
1週間に1~2回

- ▼プレドニゾン
0.2mg/kg/痒い時だけ
- ▼ノルバサンシャンプー
1週間に1~2回

- ▼投薬なし
- ▼ノルバサンシャンプー
1週間に1~2回



- ステロイド薬は、その時の掻痒を抑えるために短期間だけ使用した。
- 抗菌薬、抗真菌薬は2週間まで服用し、その後、投薬を終了した。

- 患部の掻痒は、週1回のステロイド薬の投与だけでほとんど治まった。

- 被毛はほぼ完全に再生した。

飼主の
痒みの
評価

頻繁に掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



たまに掻いたり咬んだりするが、
快適そうに過ごしている

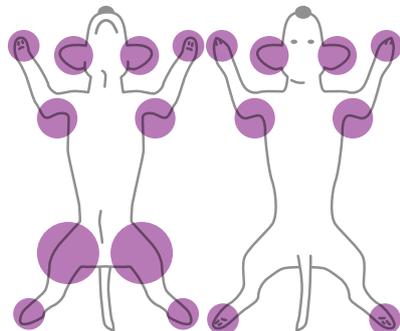


まったく痒がっていないか、
めったに掻くことはない



栄養管理

スキンサポート



性別	去勢オス	年齢	5歳	発症年齢	2歳	
症状	掻痒					
発症部位	耳、肘～腋窩部、大腿部内側～足根、肢端				季節性	なし
食事歴	市販の総合栄養食、他社の皮膚疾患用療法食(新奇タンパク食)					
病歴	2歳頃から耳、肢端の掻痒を呈し、5歳頃から悪化した。セファレキシン、ケトコナゾール、オトマックスによる治療とノルバサンシャンプーを試したが、改善がみられなかった。新奇タンパク食による食事療法を併用したが改善しなかったため、動物アレルギー検査を実施し、食事をスキンサポートへ変更した。					

給与開始時 **0** 日目

給与 **30** 日目

給与 **60** 日目

主な治療

- ▼セファレキシン 20mg/kg/bid/PO
- ▼ケトコナゾール 8mg/kg/sid/PO
- ▼ノルバサンシャンプー 1週間に1～2回

- ▼セファレキシン 20mg/kg/bid/PO
- ▼ノルバサンシャンプー 1週間に1～2回

- ▼投薬なし
- ▼ノルバサンシャンプー 1週間に1～2回



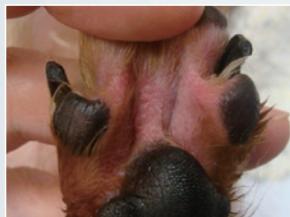
右大腿部内側



右上腕



右前肢腋窩



左後肢趾間

● 外耳炎にはクリーナー、点耳薬を使用したが、赤色がさらに悪化した。



右大腿部内側



右上腕



右前肢腋窩



左後肢趾間

● 症状はこの数ヶ月間の中で、最も改善した。



右大腿部内側



右上腕



右前肢腋窩



左後肢趾間

● 約半年間、改善されなかった皮膚症状が、ほとんど消失していた。

飼主の
痒みの
評価

頻りに掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



たまに掻いたり咬んだりするが、
快適そうに過ごしている

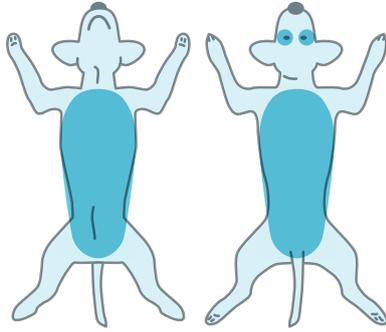


まったく痒がっていないか、
めったに掻くことはない



栄養管理

低分子プロテイン
ライト



性別	避妊メス	年齢	6歳6か月	発症年齢	3か月
症状	掻痒、脱毛、鱗屑				
発症部位	皮膚、眼、前胸部	季節性	なし		
食事歴	Vets Plan、セレクトスキンケア、ウェイトケア				
病歴	生後3か月齢時に皮膚の掻痒、結膜炎を主訴に来院し、シャンプーと点眼薬で対処した。1歳時より、皮膚の発赤、脱毛、眼周囲の腫脹などを呈したことから、アレルギー性皮膚炎と診断し、治療を開始した。5年前より、症状悪化時にシプロフロキサシン、タベジール、プレドニゾロンを使用し始め、1年前からは、セファレキシンとプレドニゾロンを継続して使用した。				

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

主な治療

- ▼セファレキシン
20mg/kg/bid/PO/1週間に2回
- ▼プレドニゾロン
0.6mg/kg/PO/1日おきに1回
- ▼ノルバサンシャンプー
2週間に1回

- ▼セファレキシン
20mg/kg/bid/PO/1週間に2回
- ▼プレドニゾロン
0.6mg/kg/PO/1日おきに1回
- ▼1か月間、シャンプーせず

- ▼セファレキシン
20mg/kg/bid/PO/1週間に2回
- ▼プレドニゾロン
0.6mg/kg/PO/1日おきに1回
- ▼ノルバサンシャンプー
3週間に1回



● 全身に発赤、脱毛、掻破痕がみられた。



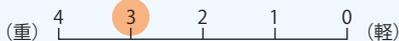
● 患部に、うぶ毛が発毛し始めていた。



● 胸部の脱毛部に、うぶ毛がさらに発毛していた。
● 皮膚の色も正常に戻ってきた。

飼主の
痒みの
評価

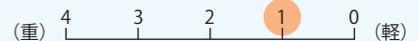
頻りに掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



ときどき掻いたり咬んだりし、
落ち着きがないことがある

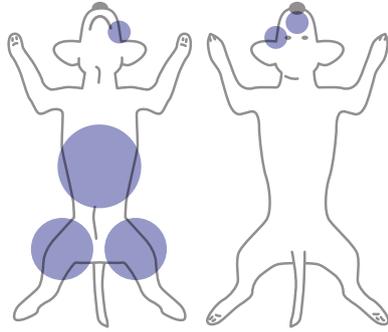


たまに掻いたり咬んだりするが、
快適そうに過ごしている



栄養管理

セレクトプロテイン
(ダック&タピオカ)



性別	メス	年齢	8歳7ヵ月	発症年齢	2歳
症状	発赤、色素沈着、苔癬化、脱毛				
発症部位	腹部、大腿部内側、鼻梁部、左頬部	季節性	なし		
食事歴	他社の皮膚疾患用療法食(新奇タンパク食、加水分解タンパク食)				
病歴	他院にてプレドニゾン(1mg/kg/sid)を週3回、5年間投薬し続けてきた。その後、当院を受診した。				

給与開始時 **0**日目

給与 **30**日目

給与 **60**日目

主な治療

- ▼ ピブラマイシン 5mg/kg/bid/PO
- ▼ イトラコナゾール 5mg/kg/sid/PO
- ▼ マラセブシャンプー 1週間に2回

- ▼ 投薬なし
- ▼ マラセブシャンプー 1週間に2回

- ▼ 投薬なし
- ▼ マラセブシャンプー 1週間に2回



● 重度の搔痒が認められた。

● 腹部の色素沈着はかなり改善され、発毛が認められた。

● 症状は改善し、シャンプー療法と食事療法の併用で搔痒を管理できるようになった。

飼主の
痒みの
評価

常に掻いたり咬んだりし、いつも落ち着きがない



たまに掻いたり咬んだりするが、快適そうに過ごしている

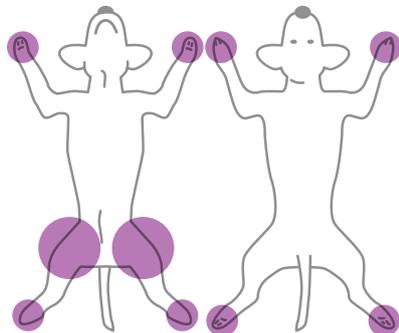


まったく痒がっていないか、めったに掻くことはない



栄養管理

スキンサポート



性別	オス	年齢	7歳	発症年齢	6歳
症状	掻痒、脱毛、落屑				
発症部位	大腿部内側、肢端	季節性	なし		
食事歴	市販の総合栄養食(4種類)、米、魚、牛の軟骨、犬用ニボシ				
病歴	セファレキシンなどの抗菌薬投与、フードの変更、シャンプー療法などを行ってきたが、一時的な効果のみで満足な結果が得られなかった。フードの統一性も飼い主の都合により不確実であった。セファレキシンの投薬を2週間数回、ベタメタゾン、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩を数回、ノルバサン・オーツシャンプーを週に1~2回使用していた。				

給与開始時 0日目

給与 30日目

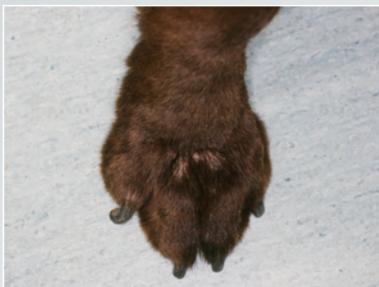
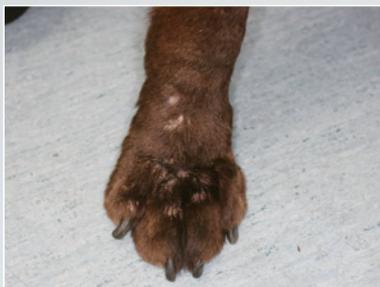
給与 60日目

主な治療

- ▼投薬なし
- ▼ヨードシャンプー 1週間に1回

- ▼投薬なし
- ▼ヨードシャンプー 1週間に1回

- ▼投薬なし
- ▼ヨードシャンプー 1週間に1回



● 肢端の掻痒が重度であった。

● 肢端の脱毛部にも発毛が認められ、皮膚の状態はかなり改善した。

● 給与30日目よりも、皮膚の状態はさらに良くなった。
● 肢端の発毛もさらに改善した。

飼主の
痒みの
評価

頻りに掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



頻りに掻いたり咬んだりして、
落ち着きがない



たまに掻いたり咬んだりするが、
快適そうに過ごしている



栄養管理

**アミノペプチド
フォーミュラ**



性別	避妊メス	年齢	4歳	発症年齢	4歳	食事歴	他社の皮膚疾患用療法食(新奇タンパク食)
症状	掻痒	発症部位	眼、口唇周囲、四肢、腹部、腋窩部、頸部			季節性	なし
病歴	幼少時より痒みを呈し投薬にて改善するが休薬すると再発。 各種アレルギー検査にて犬アトピー性皮膚炎、食物アレルギーと診断。除去食としてフード給与を開始。						

給与開始時 **0日目**

給与 **30日目**

給与 **60日目**

主な治療

- ▼プレドニゾン〈0.6mg/kg/sid/PO/1日おき〉
- ▼セファレキシム〈29mg/kg/bid/PO〉
- ▼イトラコナゾール〈5.9mg/kg/sid/PO〉
- ▼ヘルスラボシャンプー(全身)〈1週間に1回〉
- ▼ケトセブシャンプー(口囲・指間等)〈1週間に1回〉

- ▼プレドニゾン〈0.6mg/kg/sid/PO/1日おき〉
- ▼イトラコナゾール〈5.9mg/kg/sid/PO〉
- ▼ヘルスラボシャンプー(全身)〈1週間に1回〉
- ▼ケトセブシャンプー(口囲・指間等)〈1週間に1回〉

- ▼イトラコナゾール〈5.9mg/kg/sid/PO〉



- 来院時、掻痒の悪化がみられたため、プレドニゾンを処方し、経過観察した。
- その後1週間休薬し、各種アレルギー検査を行い、アミノペプチドフォーミュラを選択した。



- 当初あった頸部掻破による二次感染は完治し、口周囲の掻痒のみが持続していた。
- 掻痒の程度は当初の半分くらいで、しきりに痒がることはなくなった。



- 給与30~60日の間に、白内障の治療のため、眼周囲を毛刈りしている。
- 掻痒が認められた口周囲は、シャンプーできなかつたにもかかわらず、改善した。

栄養管理

**アミノペプチド
フォーミュラ**



性別	去勢オス	年齢	7歳2ヵ月	発症年齢	1歳	食事歴	他社の皮膚疾患用療法食
症状	脱毛、掻痒	発症部位	耳介、口唇周囲、四肢、腹部、腋窩部、腰背部			季節性	なし
病歴	他院で甲状腺機能低下症、膿皮症、アレルギーとして治療を受けていた。 抗生剤、抗真菌シャンプーによる治療に反応するも、皮疹部の痒みが続いている。						

給与開始時 **0日目**

給与 **30日目**

給与 **60日目**

主な治療

- ▼イトラコナゾール〈5.9mg/kg/sid〉
- ▼チロタビ〈10mg/kg/sid/PO〉
- ▼マラセシャンプー・ノルバサンサージカルスクラブ〈1週間に2回〉

- ▼投薬なし
- ▼ノルバサンサージカルスクラブ〈1週間に2回〉

- ▼投薬なし



- 抗菌薬、イトラコナゾールシャンプーを使用し、2ヵ月経過していた。
- 感染の徴候は多少良化するも治らず、皮疹部の掻痒が続いていた。



- 耳、腰部、背部の皮疹が消失し、前肢端のわずかな掻痒が残る程度となった。
- 脱毛部はおおむね改善された。



- 睡眠前に前肢を舐める程度となった。全身に発毛がみられ、毛づやもよくなった。
- 休薬で再発していた膿皮症、外耳炎の徴候も認められなかった。

栄養管理

アミノペプチドフォーミュラ



性別	メス	年齢	2歳	発症年齢	1歳	食事歴	市販の低アレルギー食→スキンサポート
症状	鱗屑、発赤、色素沈着、苔癬化、脱毛		発症部位	背部、腹部、耳介、眼、口唇周囲		季節性	あり
病歴	膿皮症発症時にセファレキシン、マラセチア性皮膚炎発症時にケトコナゾール、症状悪化時にプレドニゾロンを投薬した。						

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

主な治療

- ▼セファレキシン〈17.4mg/kg/bid/PO〉
- ▼プレドニゾロン〈0.17mg/kg/PO/1日おき〉
- ▼クレマスチンフマル酸塩〈0.03mg/kg/sid/PO〉
- ▼イーペットケア・スキンケアボディソープ・コラージュフルフル・ノルバサンシャンプーの併用〈1~2週間に1回〉

- ▼プレドニゾロン〈0.18mg/kg/PO/1日おき〉
- ▼クレマスチンフマル酸塩〈0.04mg/kg/sid/PO〉
- ▼パナログ〈点耳および患部に塗布〉
- ▼マラセブシャンプー〈1週間に1~2回〉

- ▼プレドニゾロン〈0.18mg/kg/PO/1日おき〉
- ▼クレマスチンフマル酸塩〈0.04mg/kg/sid/PO〉
- ▼パナログ〈点耳を適宜〉
- ▼マラセブシャンプー〈1週間に1回〉



- フードを市販の低アレルゲン食からスキンサポートに変更したところ、症状が急に悪化したため、食物アレルギーの併発を考えた。



- 顔面の皮疹は落ち着いてきたが、頸部腹側から腋窩部にかけての脱毛と発赤は重度であった。
- その他病変部の掻痒は軽減し、鱗屑の量も減っているので、改善は認められた。



- 口唇と眼周囲の皮膚症状は改善し、ほぼ正常になった。
- スキンサポートでは痒みが強くでたことから、おそらくトリ肉(あるいは米)のアレルギーではないかと考えられた。

栄養管理

アミノペプチドフォーミュラ



性別	オス	年齢	1ヵ月	発症年齢	1ヵ月	食事歴	市販の子犬用フード
症状	発赤		発症部位	眼、口唇周囲		季節性	不明(若齢のため)
病歴	なし						

給与開始時 0日目

給与 30日目

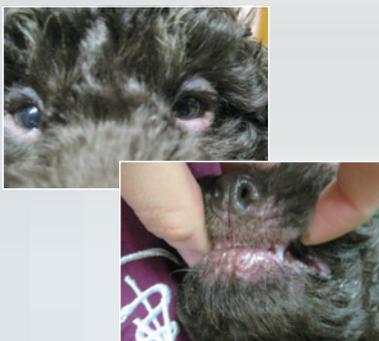
給与 60日目

主な治療

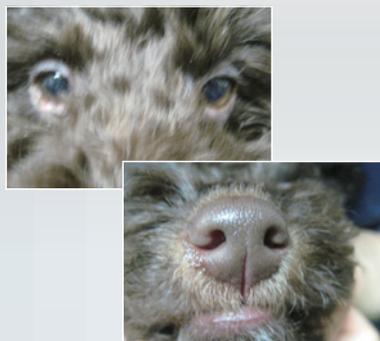
- ▼投薬なし

- ▼プレドニゾロン〈0.66mg/kg/bid/PO/3日間〉→〈sid/2週間〉→〈1日おき/2週間〉
- ▼ステロップ点眼〈tid~qid〉
- ▼オフロキサシン眼軟膏〈bid〉

- ▼プレドニゾロン〈0.66mg/kg/PO/3日に1回〉



- 若齢犬のため、食物アレルギーを疑った。



- 眼と口唇の周囲の腫れは、かなり改善した。
- 掻痒のコントロールもうまくできていた。



- 口唇の発赤はまだ残っていたが、その他の部位は良好であった。
- 飼い主から痒みがなくなったとの報告を受け、ステロイド薬を休止し、療法食のみで経過観察とした。

スキンサポート



性別	去勢オス	年齢	6歳5ヵ月	発症年齢	1歳	食事歴	市販の総合栄養食
症状	苔癬化、発赤、肥厚、掻痒	発症部位	耳介、眼・口唇周囲、鼠径部、趾間	季節性	なし		
病歴	体の掻痒が多くなり、ステロイド、抗菌薬、痒み止めを1週間程投与する。それを年数回処方。						

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

- 主な治療
- ▼セファレキシン (17.4mg/kg/bid/PO)
 - ▼プレドニゾン (0.78mg/kg/sid/PO)
 - ▼クレマスチンフマル酸塩 (0.07mg/kg/bid/PO)

- ▼プレドニゾン (0.78mg/kg/PO/1日おき/1ヵ月間)
- ▼オルピフロキサシン (3.1mg/kg/sid/PO/6日間投与し、4日間休薬を繰り返し)

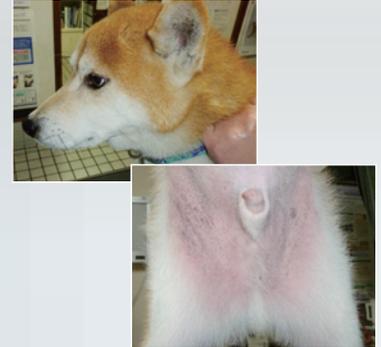
- ▼プレドニゾン (0.78mg/kg/PO/1日おき/1ヵ月間)
- ▼オルピフロキサシン (3.1mg/kg/1日おき/1ヵ月間)



- 皮膚の掻痒、発赤が続いていた。
- 高用量の内服薬での管理は困難なため、療法食を推奨した。



- 皮膚の炎症が抑えられ、ステロイド薬の投与回数を減らすことができた。
- マラセチア、細菌が減少し、発毛も認められた。



- 抗菌薬を減量しても、皮膚の状態が良好に維持されている。
- 少し苔癬化が残っていたが、皮膚は軟らかくなり、発毛が認められた。

スキンサポート



性別	オス	年齢	9歳	発症年齢	5歳	食事歴	市販のドライフード
症状	掻痒	発症部位	全身	季節性	あり		
病歴	ステロイド内服で効果はあったが、肝パネルが上昇したため休薬し、シャンプーによる洗浄を行う。						

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

- 主な治療
- ▼セファレキシン (25mg/kg/bid/PO/15日間)
 - ▼インタードッグ (1万単位/SC/1週間に1回)
 - ▼市販のシャンプーからノルバサンシャンプーに変更 (1週間に1回)

- ▼プレドニゾン (0.125mg/kg/3~4日に1回)
- ▼インタードッグ (1万単位/SC/1週間に1回)
- ▼ノルバサンシャンプー (1週間に1回)

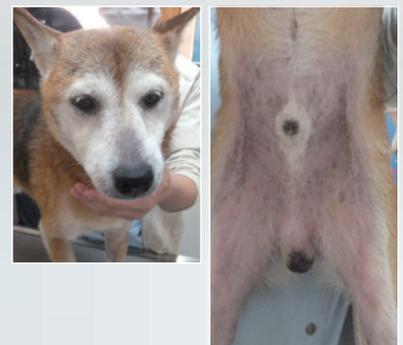
- ▼プレドニゾン (0.125mg/kg/PO/2~3日に1回)
- ▼ノルバサンシャンプー (1週間に1~2回)



- 全身に掻破痕が認められた。
- IFN療法開始1週間後に食事療法を開始した。



- 食事療法併用1週間後には、皮膚に明らかな改善傾向がみられた。
- 食事療法併用2~3週間後、重度の掻痒による四肢の掻破痕がみられたが、舐めることのできない腹部の皮膚には改善がみられた。



- IFN療法との効果も相まって、掻痒は軽減した。
- 食事療法併用1ヵ月を過ぎた頃から毛づやが良くなったが、これは食事療法の効果と思われた。

栄養管理

スキンサポート



性別	避妊メス	年齢	13歳	発症年齢	11歳	食事歴	海外メーカーの市販フード
症状	重度の掻痒、象皮、脱毛		発症部位	顔面、腹部、腋窩部、後躯		季節性	なし
病歴	2年前より他院にて継続的に抗生剤とステロイドを処方。半年間の休薬期間を経て当院を受診。						

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

- 主な治療
- ▼セファレキシン〈25mg/kg/bid/PO〉
 - ▼ケトコナゾール〈5mg/kg/bid/PO〉
 - ▼プレドニゾン〈0.12mg/kg/PO/1日おき〉
 - ▼ホスチーン、マラセブシャンプー〈2週間に1回〉



- 初診時に比べ皮膚症状は落ち着いていたが、エリザベスカラーの装着が奏功していた。
- 顔面、後肢に顕著な発毛がみられた。
- 投薬と2週間に1回の薬浴を継続した。



- 飼い主の主観では痒みが増えたようだが、皮膚病変は良好化していた。
- 院内でカラーを外しても、時々掻く程度に抑えられていた。
- 投薬と薬浴を継続した。



- 顕著な発毛が認められ、とくに体幹は良質な被毛となった。
- 四肢と腋窩部〜腹部は、もう少し発毛を期待したい。

栄養管理

低分子プロテイン



性別	メス	年齢	10ヵ月	発症年齢	7ヵ月	食事歴	子犬用の缶詰、海外メーカーのドライフード
症状	掻痒		発症部位	眼周囲、腋窩部		季節性	なし
病歴	なし						

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

▼投薬なし

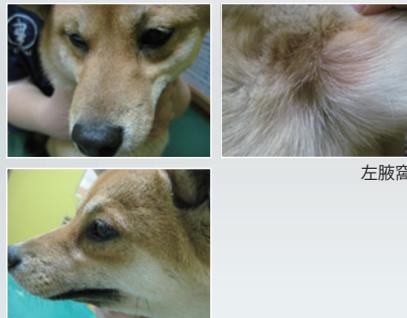
▼投薬なし

▼投薬なし



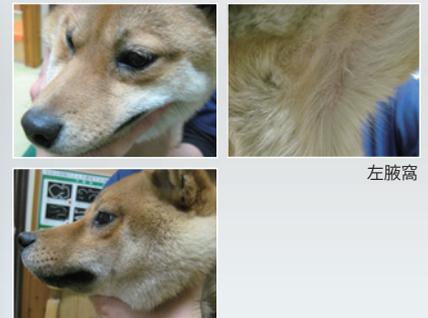
左腋窩

- 両眼が涙目で痒そうだという主訴で来院した。
- 皮膚掻破検査を実施したが、外部寄生虫などは検出されなかった。
- アレルギー性皮膚炎を疑い、フードの変更を勧めた。



左腋窩

- 掻痒はまだ少しみられるものの、眼周囲の脱毛部などは落ち着いている。
- きれいになってきたと飼い主からの報告があった。



左腋窩

- 皮膚・被毛の状態は維持され食事療法が合っていると考えられた。

低分子プロテイン



性別	メス	年齢	4歳	発症年齢	4歳	食事歴	市販の総合栄養食
症状	掻痒、肥厚、苔癬化、脱毛	発症部位	口唇、耳介、腋窩部(前胸部)、腹部、四肢	季節性	なし		
病歴	本院初診時には、口唇、耳介内側、左腋窩部に重度の脱毛・発赤・苔癬化がみられ四肢端にも色素沈着があった。						

給与開始時 0日目

給与 30日目

給与 60日目

主な治療
 ▼プレドニゾン(0.6mg/kg/sid/PO)
 ▼エンロフロキサシン(8mg/kg/sid/PO/1ヵ月間)

▼プレドニゾン(0.25mg/kg/sid/PO/2週間)

▼投薬なし



- 食事療法のみでは早期の改善が望めそうにないため、初診時からプレドニゾンの投薬を併用した。
- シャンプーは難しい症例であったため、実施しなかった。



- 耳介の脱毛と色素沈着、四肢の脱毛は軽減したものの、まだ目立っていた。
- 口唇の脱毛と腋窩の苔癬化はほとんど消失した。
- 掻痒はおおむね改善したが、ここまではステロイド薬の影響が大きいと考えられた。



- 脱毛、掻痒、苔癬化は全くなり、症状は消失した。耳介の炎症も8~9割消失し、内側にやや苔癬化が残る程度となった。
- 投薬は減量し、シャンプーも実施していなかったため、食事療法が合っていたものと思われる。

低分子プロテイン + pHコントロール



性別	避妊メス	年齢	10歳6ヵ月	発症年齢	3歳	食事歴	他社の療法食(皮膚疾患用、下部尿路疾患用、体重管理用)
症状	掻痒、発赤、膿皮	発症部位	全身	季節性	なし		
病歴	もともと全身性の発赤と膿皮があり、コンベニア、プレドニゾン、セファレキシム、エンロフロキサシンにて治療した。						

給与開始時 0日目

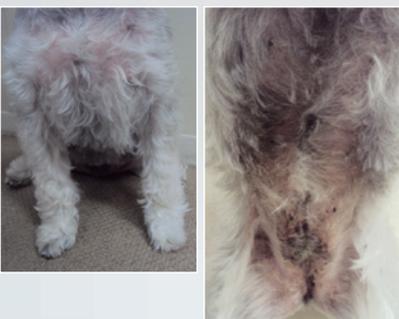
給与 30日目

給与 60日目

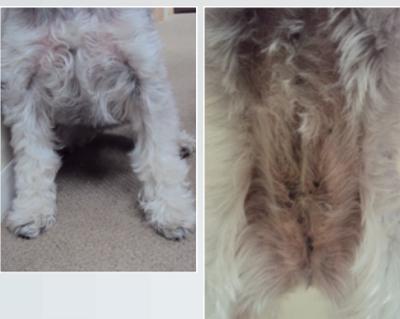
主な治療
 ▼コンベニア(80mg/kg/SC/2週間に1回)
 ▼ノルバサンシャンプー(2週間に1回)

▼投薬なし
 ▼ノルバサンシャンプー(2週間に1回)

▼投薬なし
 ▼ノルバサンシャンプー(2週間に1回)



- 膿皮はコンベニアを使用後3週間くらいは治まるが、耐性菌を懸念した。
- 投薬が上手くできず、今回のトライアルをきっかけにフードを変更した。



- コンベニアを使用しなくても、膿皮が発症しなくなった。
- 皮膚の発赤はまだ残っていた。



- 皮膚の発赤は減り、膿皮は全くなりなくなった。
- 掻痒も軽減し、皮膚の状態が良好に保たれていた。

栄養管理

スキンケアプラス
ジュニア



性別	メス	年齢	5ヵ月	発症年齢	4ヵ月	食事歴	市販のドライフード、ヨーグルトほか
症状	発赤、掻痒、脱毛、皮膚のベタつき、食後すぐの嘔吐		発症部位	頭部、脇腹、大腿部		季節性	不明
病歴	毛包虫症の既往歴があり。ドラメクチン注射、セファレキシン、プレドニゾロンにて治療した。						

給与開始時 0日目

主な治療
 ▼セファレキシン〈20mg/kg/bid〉
 ▼プレドニゾロン〈0.6mg/kg/1日おき〉



後頭部～頸部

- 左腹部～左大腿部、後頭部の発赤と脱毛が重度で、全体的に皮膚にベタつきが認められた。
- 若齢のためか、苔癬化は全体的に軽度であった。

給与 30日目

▼プレドニゾロン〈0.6mg/kg/1日おき〉



後頭部～頸部

- 左腹部～左大腿部の発赤の減少と顕著な発毛がみられたため、抗菌薬投与を終了した。
- 以前は頻繁に食後すぐの嘔吐がみられたとのことだが、食事の変更後にはなくなったとのこと。

給与 60日目

▼投薬なし



後頭部～頸部

- 腋窩部の脱毛部位には、しっかりと毛が生えそろった。
- 皮膚のベタつきは依然として残っていた。
- 時々、痒みがあるものの、経過は良好であった。

■ コンペティション評議員コメント

岩崎 利郎 先生 東京農工大学



先生方の症例を興味深く見させて頂きました。特に気がついたのは、応募される先生方の勉強の成果が如実にみられる症例が、以前に比べるととても増えてきたということです。そして勉強の成果は、このような日常の診療に活かされているという事実も認識できてとてもうれしく思いました。このようなコンペティションが先生方の勉強へのモチベーションをさらに上げる機会になれば幸いですと思っています。

永田 雅彦 先生 どうぶつ皮膚病センター



皮膚病と食事の関係を検討したこれほどの大規模な調査はみたことがありません。そしてさらに驚いたのが、食事で劇的に改善する皮膚病は実に少ないけれども、食事が皮膚病治療の一助となる症例はきわめて多いという事実でした。定型的な食物アレルギーよりも皮膚病全般における食事の大切さを再認識させられました。すでに多くの方々が指摘しているように、食物と皮膚との関係は複雑であり、食事で改善した症例を安直に食物アレルギーと診断せず、その確定には負荷試験が不可欠です。したがって負荷試験のない食事改善例は食物有害反応というアレルギーを特定しない評価にて、その管理を柔軟に指導するのが適正と思われる。

西藤 公司 先生 東京農工大学



いずれの報告とも大変興味深く拝見いたしました。特に今回採択された報告については、いずれも「適切な食事管理は、症例によってはあらゆる薬物療法に勝るとも劣らない」ことを示した、大変貴重な報告であると思えました。食事による改善例がこれだけ多く集まったことは審査員にとっても圧巻で、皮膚疾患に対する食事管理の重要性を再認識させられました。既に成書でも述べられている通り、食事の変更後にかゆみや皮膚炎の改善がみられた場合、本当に「食事によって」症状が改善したのか、それとも「偶然のタイミングで」症状が改善したのかを確認するために、負荷試験を実施するのが望ましいとされています。今後は負荷試験も含めた犬の食物有害反応に対する大規模調査が行われることで、真の食事管理が必要な症例に対し、適切な食事を選択できる「テーラーメイド」的な治療が行われる時代が来ることを望みます。

■ クリニカルケース統計データ

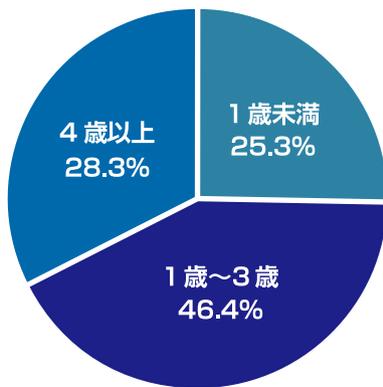
● 犬種

順位	犬種	件数
1	柴	126
2	ミニチュア・ダックスフンド	82
3	MIX	76
4	シーズー	75
5	フレンチ・ブルドッグ	70
6	チワワ	49
6	トイ・プードル	49
8	キャバリア・キングチャールズ・スパニエル	36
9	ラブラドル・レトリバー	27
10	ゴールデン・レトリバー	24

順位	犬種	件数
11	パグ	22
11	ヨークシャー・テリア	22
13	ミニチュア・シュナウザー	17
14	ビーグル	16
15	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	15
16	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	14
17	パピヨン	13
18	ミニチュア・ピンシャー	11
18	ワイヤー・フォックス・テリア	11
20	ジャック・ラッセル・テリア	10
21	アメリカン・コッカー・スパニエル	9
21	マルチーズ	9
21	シェットランド・シープドッグ	9
24	ポメラニアン	7
24	秋田	7

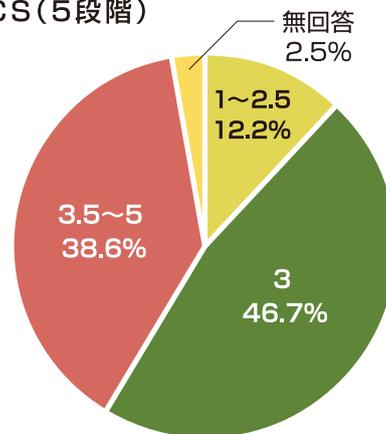
※エントリー数(897症例)より抽出

● 発症年齢



アレルギー性皮膚疾患の診断の手がかりの一つとして、発症年齢(若齢での発症)が報告されています。^{*1 *2}本コンペティションでは、初発年齢が3歳以下の症例が71.7%を占める結果となりました。

● BCS(5段階)



皮膚疾患と肥満の相関性についてはいくつかの報告があります。^{*3}本コンペティションにおいては、標準よりも肥満している症例が38.6%という結果となりました。

アミノペプチドフォーミュラ 製品評価



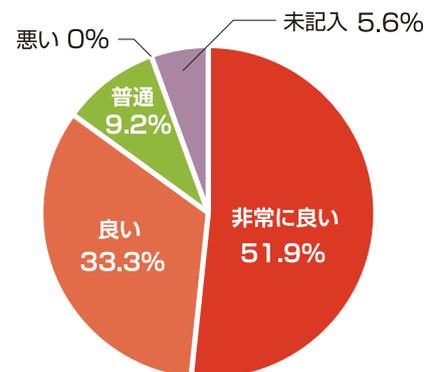
● 獣医師評価



● 飼い主評価



● 嗜好性(30日目)



食物アレルギーを含む様々な皮膚病でご使用いただき、70%以上の先生方にご好評をいただきました。嗜好性については、実に94.4%の犬がアミノペプチドフォーミュラへの変更を受け入れました。

※1 Favrot C. Vet Dermatol, (2010) ※2 Hillier A, Veterinary Immunology and Immunopathology (2001) ※3 梅田ら. JCVIM abstract, (2009)



ロイヤルカナン皮膚疾患対応製品

※各製品の原材料などの詳細については、製品ガイド(Royal Canin Product Book 2012)をご覧ください。

犬用
食事療法食

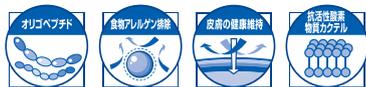


アミノペプチド フォーミュラ ANALLERGENIC

食物アレルギーによる皮膚疾患および消化器疾患の犬のために、窒素源をアミノ酸およびオリゴペプチドで構成し、炭水化物源としてコーンスターチを使用しています。

対象

- 食物アレルギーによる皮膚・消化器疾患
- 炎症性腸疾患 (IBD)
- 除去食試験
- 脾外分泌不全 (EPI)
(タンパク質による負荷を低減したい場合) など



主な原材料

コーンスターチ、加水分解フェザーミール(アミノ酸およびオリゴペプチド)、ココナッツオイル、大豆油、植物性繊維、チコリーバルブ、フラクトオリゴ糖、魚油、動物性油脂、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類



低分子プロテイン + pHコントロール HYPOALLERGENIC + URINARY S/O

食物アレルギーによる皮膚疾患や消化器疾患で下部尿路疾患の犬のために、アレルギーの原因となりにくい加水分解タンパクを使用しています。また、マグネシウムなどのミネラル成分を調整しています。

対象

- 食物アレルギーによる皮膚、消化器疾患
- 炎症性腸疾患 (IBD)
- 除去食試験
- 脾外分泌不全 (EPI)
(タンパク質による負荷を低減したい場合)
- 犬の下部尿路疾患 など



主な原材料

米、加水分解大豆タンパク、動物性油脂、加水分解家禽レバー、ビートパルプ、大豆油、フラクトオリゴ糖、魚油、ルリチンオイル、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類



低分子プロテイン / 低分子プロテイン ライト HYPOALLERGENIC / HYPOALLERGENIC MODERATE CALORIE

食物アレルギーによる皮膚疾患および消化器疾患の犬のために、アレルギーの原因となりにくい加水分解タンパクを使用しています。

対象

- 食物アレルギーによる皮膚、消化器疾患
- 炎症性腸疾患 (IBD)
- 除去食試験
- 脾外分泌不全 (EPI)
(タンパク質による負荷を低減したい場合) など



主な原材料

米、加水分解大豆タンパク、動物性油脂、加水分解家禽レバー、ビートパルプ、大豆油、フラクトオリゴ糖、魚油、ルリチンオイル、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類



低分子プロテイン



低分子プロテインライト



セレクトプロテイン SENSITIVITY CONTROL

食物アレルギーによる皮膚疾患、消化器疾患に配慮し、タンパク質および炭水化物源を限定しています。

対象

- 食物アレルギーによる皮膚、消化器疾患
- 炎症性腸疾患 (IBD)
- 慢性の下痢
- 除去食試験 など



主な原材料

ダック&タピオカ
タピオカ、ダック、加水分解家禽タンパク、食物繊維、動物性油脂、ビートパルプ、魚油、大豆油、サイリウム、フラクトオリゴ糖、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類

チキン&ライス
鶏肉、米、セルロース、魚油、サンフラワーオイル、フラクトオリゴ糖、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、増粘多糖類、ミネラル類、アミノ酸類、ビタミン類



ダック&タピオカ



チキン&ライス



チキン&ライス



スキンサポート
SKIN SUPPORT

アレルギーの原因となりにくい高消化性の原材料を使用し、またω3系脂肪酸(EPA、DHA)やクルクミン、アロエおよび抗活性酸素物質を含有しています。

対象

- 犬トピー性皮膚疾患
- 皮膚疾患、二次感染症の回復補助 など



主な原材料

米、家禽肉(鶏、七面鳥)、食物繊維、加水分解動物性タンパク、魚油、ビートパルプ、大豆油、クルクミン、ルリチンオイル、アロエベラエキス、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類



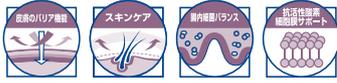
スキンケアプラス 成犬用
SPECIAL SKIN CARE

アレルギーの原因となりにくく、また消化性の高い植物性のタンパク質を主に使用しています。



対象

- 敏感な皮膚の犬に／成犬の毎日の食事として



主な原材料

コーン、超高消化性小麦タンパク(消化率99%)、米、タピオカ、動物性油脂、コーングルテン、加水分解動物性タンパク、大豆油、チコリー、魚油、亜麻種子、フラクトオリゴ糖、ルリチンオイル、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類



スキンケアプラス ジュニア
SPECIAL SKIN CARE

成長期の子犬のために、アレルギーの原因となりにくく、また消化性の高い植物性のタンパク質を主に使用しています。



対象

- 成長期の敏感な皮膚の子犬に



主な原材料

米、超高消化性小麦タンパク(消化率99%)、動物性油脂、コーン、コーングルテン、加水分解動物性タンパク、大豆分離タンパク(消化率95%)、ビートパルプ、大豆油、食物繊維、魚油、亜麻種子、フラクトオリゴ糖、ルリチンオイル、酵母エキス(マンノオリゴ糖源)、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ポリリン酸ナトリウム、ミネラル類、ビタミン類



セレクトスキンケア
SELECT SKIN CARE

アレルギーの原因となりにくく、また消化性の高いタンパク質および炭水化物(七面鳥、米)を使用しています。



対象

- 胃腸が弱い犬や敏感な皮膚の犬に



主な原材料

米、七面鳥、動物性油脂、加水分解家禽タンパク、米グルテン、大豆油、ビートパルプ、ミネラル類、ビタミン類



低分子プロテイン
HYPOALLERGENIC

食物アレルギーによる皮膚疾患および消化器疾患の猫のために、アレルギーの原因となりにくい加水分解タンパクを使用しています。

対象

- 食物アレルギーによる皮膚、消化器疾患
- 炎症性腸疾患(IBD)
- 除去食試験 など



主な原材料

米、加水分解大豆タンパク、動物性油脂、セルロース、加水分解家禽レバー、大豆油、ビートパルプ、魚油、フラクトオリゴ糖、ルリチンオイル、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類



セレクトプロテイン
SENSITIVITY CONTROL

食物アレルギーによる皮膚疾患、消化器疾患に配慮し、タンパク質および炭水化物源を限定しています。

対象

- 食物アレルギーによる皮膚、消化器疾患
- 炎症性腸疾患(IBD)
- 慢性の下痢
- 除去食試験 など



主な原材料

ダック&ライス
米、ダック、米グルテン、動物性油脂、セルロース、加水分解家禽レバー、大豆油、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、アミノ酸類、ミネラル類、ビタミン類

チキン&ライス
鶏肉、鶏レバー、米、セルロース、魚油、サンフラワーオイル、フラクトオリゴ糖、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、増粘多糖類、ミネラル類、アミノ酸類、ビタミン類



ダック&ライス



ダック&ライス チキン&ライス ダック&ライス チキン&ライス

ROYAL CANIN
Dermatology
Clinical Case
Competition 2012



ロイヤルカナン 獣医師向け会員サイト

<http://www.royalcanin-v.jp/login.php>

皮膚疾患クリニカルケース コンペティション2012 につきましては、
ロイヤルカナンホームページの「獣医師向け会員サイト」でもご覧いただけます。

**ROYAL CANIN**

〒108-0075 東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル4階
ロイヤルカナン ジャポン ペテリナリー事業部